



五色台の昆虫
五色台で独自に進化した種、五色台が県内での数少ない貴重な生息地となっている種、五色台北部の玉川河口周辺が四国で唯一の生息地となっている種もいる。



五色台の両生類・は虫類
五色台は乾いた環境が多い。そのためか、乾燥に強いは虫類が14種も生息するのに対し、乾燥に弱い両生類は、6種しか確認されていない。



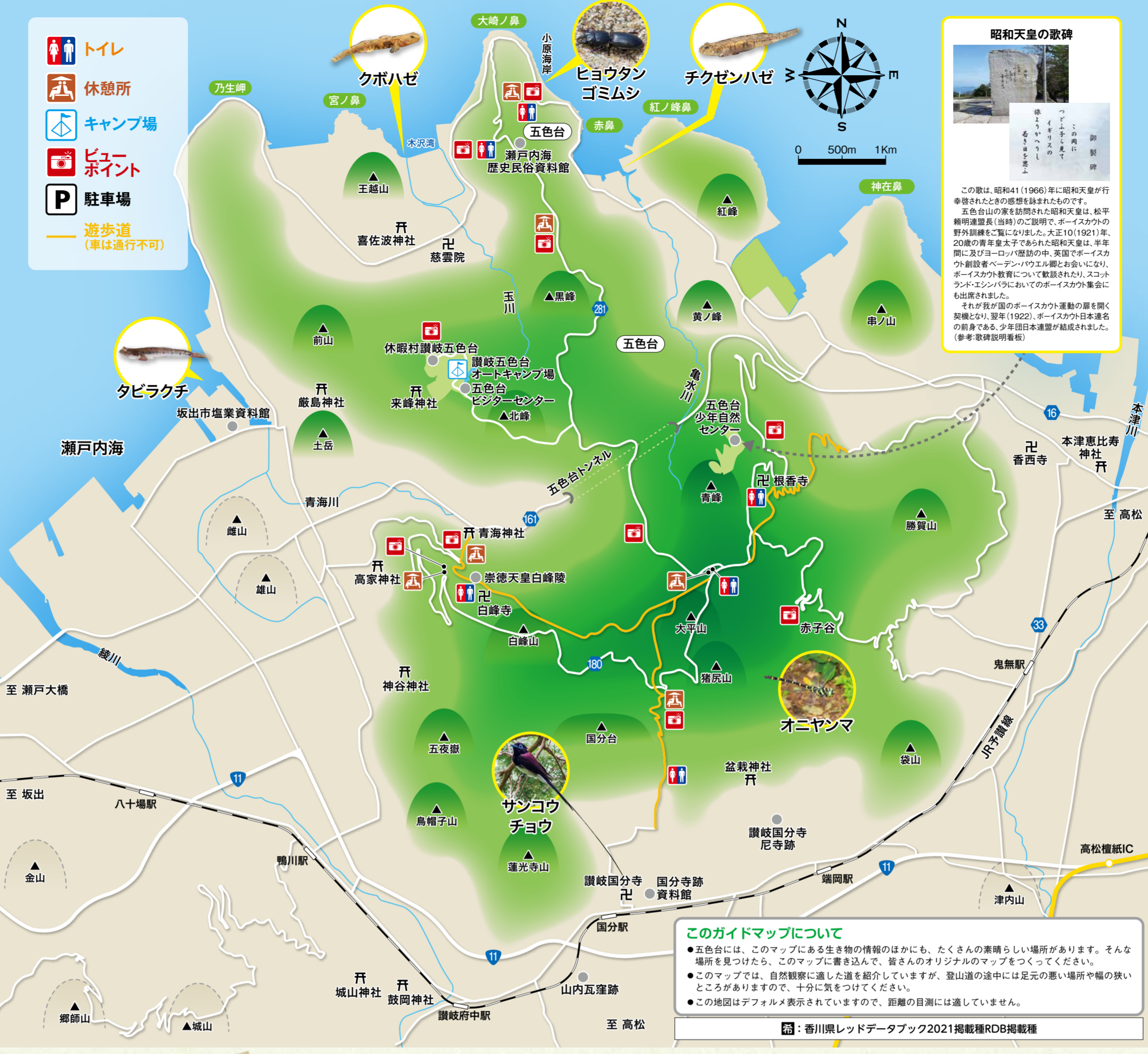
五色台の汽水域の魚類
五色台の北部には五色台を源とする、青海川や玉川、亀水川が流れている。いずれも5km未満の短い河川だが、それぞれの河口にはハゼ類を中心に希少な魚類が多数生息している。



五色台の甲殻類
五色台の沢ではサワガニが多く生息するが、時折モクスガニも見つかる。玉川の流入する木沢川では46種ものエビやカニの仲間(十脚目)が確認されている。



五色台の貝類
五色台及びその周辺ではそれぞれの環境に適応した様々な貝類が暮らしている。森林では68種の陸貝、池や川では16種の淡水産の貝類、河口では10種の汽水産の貝類、木沢湾では63種の高産の貝類が生息している。



このガイドマップについて
●五色台には、このマップにある生き物の情報のほかにも、たくさんの素晴らしい場所があります。そんな場所を見つけたら、このマップに書き込んで、皆さんのオリジナルのマップをつくってください。
●このマップでは、自然観察に適した道を紹介していますが、登山道の途中には足元の悪い場所や幅の狭いところがありますので、十分に気をつけてください。
●この地図はデジタル形式表示されているので、距離の目測には適していません。



五色台の菌類
香川県では、これまで647種が確認されており、五色台では312種(香川県全体の約48%)が見つかっており、昆虫に寄生する菌類(冬虫夏草)が10種が報告されている。

五色台の哺乳類
五色台は山脈から離れ、平野に囲まれていることから森林が連続せず、「陸の孤島」の状況にあり、小型種にとっては分布を広げにくくなっている。山塊としては広い面積をもち国立公園内で自然環境が比較的保存されている割には、哺乳類の種類は21種と少ない。昔はアマガサが生息していたが、近年の記録は無く、五色台では生息していない可能性がある。

昭和天皇の歌碑
この歌は、昭和41(1966)年に昭和天皇が行幸されたときの感想を詠まれたものです。五色台山の家を訪問された昭和天皇は、松平頼明連盟長(当時)のご説明で、ボイスカウトの野外訓練をご覧になりました。大正10(1921)年、20歳の青年皇太子であった昭和天皇は、半年間に及び三回、山口(現山口県)でボイスカウト創設者ペーデンバウエルと出会い、ボイスカウト教育について教談されたり、スコットランドシバラにおいてのボイスカウト集にも出席されました。それが我が国のボイスカウト運動の扉を開く契機となり、翌年(1922)、ボイスカウト日本連盟の前身である、少年日本連盟が結成されました。(参考:歌碑説明看板)



五色台の鳥類
五色台及びその周辺では、これまで144種の鳥類が確認されている。大崎の鼻は瀬戸内海に突き出て、すぐ先には小徳島や大徳島があるため、危険をきながら、なるべく素を隠して瀬戸内海を渡りたい鳥にとって、渡りの良い中継地点となっている。



五色台の植物
五色台及びその周辺では、これまで989種の維管束植物(シダ植物と種子植物)が確認されている。大半は森林環境のため木本類で覆われているが、防火帯や山麓の農地周辺などには草地が残っており、希少種を含む草本類が細々と生き残っている。



五色台の哺乳類
五色台は山脈から離れ、平野に囲まれていることから森林が連続せず、「陸の孤島」の状況にあり、小型種にとっては分布を広げにくくなっている。山塊としては広い面積をもち国立公園内で自然環境が比較的保存されている割には、哺乳類の種類は21種と少ない。昔はアマガサが生息していたが、近年の記録は無く、五色台では生息していない可能性がある。